

編集後記

◆12月になると、あちこちで「今世紀(あるいは20世紀)最後の」という形容詞が見受けられることになっていました。年末とか、世紀末とか、新世紀とかいう感慨を持つ余裕もなく、日々は走り抜けて行くようです。地質ニュースも、本号が今世紀最後になりますが、編集委員長に何の芸もないまま淡々と過ぎて行っている、そんなあつけなさを感えています。子供の頃、21世紀が来ること、その時には自分は50歳を超えていることは分かっていた。しかし、それは遠い未来のことであって、50歳を過ぎた自分を想像できませんでした。それが、すぐ目の前に来ているというのに、何の感慨も湧かないとは何ということでしょうか。

◆JICA専門家としてプータン滞在中の茂木さんから、休暇中に訪れたオーストラリア西海岸のストロマトライトについて、見学に便利な現地への行き方の詳細地図つき紹介原稿をいただきました。本文中に出てきますが、有名なハメルンプールはパースから最低でも1泊2日の行程が必要とのことで紹介から割愛されています。ハメルンプールにつきましては、本誌492号(95年8月号の伊津野さんの記事)に紹介記事がありますので、ご関心をお持ちの方は是非ご覧下さい(同号の表紙写真を本誌40ページに再録)。現在、地質ニュースは、誌面を画像ファイルに変換しデータベース化することを計画しています。バックナンバーをウェブ上でご覧いただく、あるいはそれをダウンロードしてご利用いただける日もそう遠くないと思われまますので、どうぞご期待下さい。

◆同じくJICA専門家として北京在住の河内さんに連載していただいている、伝記「現代地球化学の父:ゴール

ドシュミット」は最終回、第10章を迎えました。エピソードとして著者のメスン博士のほか、ゴールドシュミットから直接学問上の指導を受けた人々、あるいはその夫人による、彼の周囲との軋轢や交流を示す様々なエピソードが語られています。第三者としてそれを読む分には、それぞれが面白いエピソードですが、当事者となられた方々は貴重な思い出であったり、あるいは逆に大変な災難であったろうと察せられます。とはいえ、足かけ1年の連載でつきあってみると、気持ちの上ではやはり晶屑してしまいます。

◆伝記連載終了にあたって、当所首席研究官の松久さんに感想を書いていただきました。松久さんは、ゴールドシュミットのもとに留学した南 英一博士(東大)から続く日本の地球化学界で、曾孫世代にあたるのだそうです。連載を開始した頃、松久さんからゴールドシュミットコンファレンスに出席されたお話を伺い、連載終了時にゴールドシュミットにまつわる原稿を書いていただこうと思っていました。早速実現しました。

◆この他、当所顧問石原さんから、表紙、口絵写真とセットでコルシカバソリス巡検記、地殻化学部金井さんによる放射性元素の解説シリーズ「鉛の地球化学」、資源エネルギー地質部須藤さんによる瓦の話(5)、淡路島の瓦と粘土資源、同部の古宮さんから地球外有機物の研究の話、大阪地域地質センターの吉田さんからフォト巡検記の原稿をいただきました。ありがとうございました。新しい年も引き続き地質ニュースを盛りたてて下さいますようお願いいたします。

(湯浅真人)

地質ニュース編集委員会

委員長：湯浅真人

副委員長：石井武政

委員：星住英夫・飯笹幸吉・七山 太・佐々木宗建
佐藤興平・大熊茂雄・前川竜男・木下泰正・
中野 司・遠藤祐二

事務局：総務部業務課広報係(河村幸男・渡辺光次)

〒305-8567 茨城県つくば市東1-1-3

地質調査所 地質ニュース編集委員会

事務局 Tel. 0298-61-3520

Fax. 0298-61-3569

地質ニュース	第556号	2000年	12月号
	定価¥785(本体価格¥748)	〒実費	
	2000年12月1日	発行	
編集	工業技術院地質調査所		
発行人	株式会社 実業公報社		
	代表者 林 光生		
発行所	株式会社 実業公報社		
	東京都千代田区九段北1の7の8 〒102-0073		
	Tel. (03)3265-0951(代表)		
	Fax. (03)3265-0952		
	振替口座 00110-6-32466		
	麹町局私書箱第21号		
印刷	株式会社 エアフォルク		

©2000 Geological Survey of Japan

●本誌は東京都の霞ヶ関政府刊行物サービスセンター
およびつくば市の友朋堂書店本店に常備してありま
す。また、最寄りの書店でも注文できます。

地質ニュースに関するご意見は編集委員会へ